

おわりに

特集号を振り返って

巻頭言にも記されているとおり、当学会では、「核融合 50 周年記念事業」を立ち上げ、学会誌特集号「我が国における核融合の歴史と将来展望」を発行した。

一連の「核融合の歴史を遺す座談会」では、核融合研究の先達から核融合に対する熱意と情熱がメッセージを通して伝えられた。これこそが、先達が予め敷かれた道を進んでいったのではなく、研究者仲間、行政府、或いは海外のパートナーに働きかけて、新たな研究の展開や方向付けと、その実現のための研究組織や協力枠組みを作ってきたことの原動力であり、そこに個人の果たした役割が極めて大きかったことを学びとるものである。

かつて産業界が自助的努力も含め、惜しみなく核融合に人材を投入した背景には、先達が描き、民間、行政、政治の支持を得ながら作り上げていった国の明確な目標があった。今、足踏みの 10 年を経て、ようやく ITER 時代が始まろうとしている。幅広いアプローチやロードマップの検討に見られるように、研究者は次世代エネルギーの実現に向かって何が真に必要なかという検討に眼を向けつつあるが、同時に社会に対して何時どのように役立つかについての問いに応えなければならない。これからがエネルギー開発を標榜してきた研究者の真価が問われるものである。

ITER の建設の路線が敷かれたとはいえ、ITER でどのような研究をするか、どのように使うかについて、その具体化や関連研究など幾重にも考える自由度がある。その先の発電炉まで考えればさらに広い選択肢がある。これらの研究開発のシナリオと重要度の付与は今後の研究者に任されている。どのような知見に基づき、どのような最終目的を描き、如何に意見集約し、いかなる施策に繋げてゆくかも含め、自由である。研究開発は一つのシナリオ通りに行かないことはしばしばであり、その時の対応も考えておく必要もあろう。核融合炉の将来像が現実味を帯びて描けるようになってきた今こそ、これらの今後の研究開発の課題と方向性を議論できる環境が整ったといえよう。そのためには、これまでなされた議論を十分に理解したうえで、一段高いレベルでの議論が必要である。本特集号が、かかる目的の一助となれば幸いである。

最後に、日本の核融合の発展に対して産業界からの貢献は極めて大きなものがあった。国内の大学や研究機関に作られた、大型中型の核融合装置において、企業の製作技術に問題があって研究開発が滞ったという話を殆ど聞かなかったことは産業界の技術レベルの高さを示している。産業界が果たした役割の詳細については別途学会誌に特集記事「核融合における技術革新」として纏める予定である。

今回の座談会あるいは書簡の交換を今後活かすためには、適切なフォローアップが必要である。この核融合 50 周年記念事業を契機に、シンポジウムの開催、学会誌での誌上討論などの企画を通して核融合の将来について議論を深める機会を設けるべく努力していきたい。

実行体制

2006 年度から準備検討が始められ、2007 年度当初より理事会の下に下記学会員による委員会が設置された。同年 9 月、正式名称を「50 周年記念委員会」とした。

委員会メンバー：松田慎三郎（委員長、会長）、森雅博（幹事、理事）、秋山秀典（理事）、岡村昇一、相良明男、高村秀一、田中和夫（理事）、中村幸男（常務理事）、難波忠清、藤田順治、松岡啓介。

50 周年記念委員会では委員以外の方の協力を得て、小委員会を設け、以下の企画を実施した。

(1) 核融合の歴史を遺す座談会

小委員会：藤田順治（委員長）、難波忠清（幹事）、石野葉、小川雄一、河村和孝、佐藤徳芳、高村秀一、田中茂利、西川恭治、二宮博正、水内亨、山中龍彦、吉田善章

(2) 核融合の現状と将来

小委員会：田中和夫（委員長）、相良明男（幹事）

・「メディアと核融合の対話」（往復書簡）

小委員会サブグループ：田中和夫

・「産業界から見た核融合」（座談会）

小委員会サブグループ：岡野邦彦、相良明男

・「総合化の流れの中で大学は何をなし得るか」

（往復書簡）

小委員会サブグループ：吉田善章、高村秀一

・「若い世代は核融合研究の将来をどう描くか」（座談会）

小委員会サブグループ：岡村昇一、北島純男

(3) フローチャートにみる核融合の 50 年

小委員会：松岡啓介（委員長）、二宮博正

以上の企画を特集号に纏める編集作業は 50 周年記念委員会の責任によって行い、ここに発刊の運びとなった。事務局側の編集作業は北澤が担当した。

謝辞

座談会、往復書簡などへの参加者をはじめ、本事業にご協力いただいた方々に深甚な敬意と感謝の意を表したい。特集号の編集作業、予算管理をはじめ、あまたの無理を聞きながら協力された事務局メンバーに対しても深く感謝する。

また、核融合研究の歴史を示すフローチャートの作成にあたっては、年表データベース等の構築に尽力された核融合科学研究所核融合アーカイブ室関連のメンバー、特に木村一枝、花岡幸子の両氏に感謝する。

50 周年記念委員会 委員一同